

知財・情報フェア&コンファレンスにおける 「生成 AI と化学構造式」の展示・発表

— 2025 年（第 34 回）と 2026 年（第 35 回）の比較と変化の考察 —

調査メモ 2026 年 9 月 22 日

Claude Fable 5.1

1. 要旨

- ・ 2025 年・2026 年ともフェアの主役は生成 AI であったが、「生成 AI×化学構造式」の扱いは両年で質的に異なる。2025 年は、生成 AI ツールの機能一覧の中に「化学式にも対応」「Markush クレーム作成補助」といった項目として現れる段階にとどまり^[4]、化学構造式の検索そのものは従来型の専用検索基盤（化学情報協会が扱う CAS STNext）が担っていた^[12]。
- ・ 2026 年には、化学構造式が展示・発表の主題として前面に出た。①韓国ワートインテリジェンスが特許ドメイン言語モデル「PlutoLM」を基盤とする化学構造式の認識・検索機能「keywert Chemistry」を日本で初めて実演し、来場者が自社化合物を持ち込んで検索を試す形式で注目を集めた^[5,6]。②化学情報協会は科学特化型エージェント AI「CAS Newton」を搭載した CAS IP Finder／CAS SciFinder を中心に据え、「検証可能な AI 知財調査」を掲げた^[7,8]。③アイビーリサーチは「図面・化学式などを元に請求項・実施形態を生成」する特許専用ローカル生成 AI「AIPs」を出展者プレゼンの正式タイトルとした^[13,14]。④パテント・インテグレーションはサマリアの明細書作成支援に、AI が生成した SMILES を描画して Word／PNG へ出力する機能を会期直前に実装した^[16]。
- ・ 変化の本質は、化学構造式が生成 AI ワークフローの「入口（構造式画像からの検索・起案）」「出口（構造式を含む文書の生成・描画出力）」「検証（精査データへの根拠遡及）」の三方向に具体化した点にある（分析）。一方、Markush 包括クレームの解釈や FTO 判断が自動化されたことを示す証拠は両年ともなく、ベンダーの訴求は自己申告であって共通ベンチマークによる比較はできない。

2. 調査の前提

2.1 開催基本情報（確認済み事実）

項目	2025 年（第 34 回）	2026 年（第 35 回）
会期	2025 年 9 月 10 日（水）～12 日（金） ^[2]	2026 年 9 月 16 日（水）～18 日（金） ^[1]
会場	東京ビッグサイト 西 3・4 ホール ^[2]	東京ビッグサイト 東 3 ホール ^[1]
主催	発明推進協会、日本特許情報機構（Japio）、産経新聞社 ^[1,26]	同左 ^[1]
出展規模	158 社・団体（共同出展者含む）／328 小間 ^[2]	171 社・団体／367 小間（開幕前発表） ^[3]
登録来場者数	3 日間合計 15,207 人 ^[2]	3 日間合計 15,502 人 ^[1]
出展者プレゼン	全 86 テーマ ^[4]	6 会場・全 108 テーマ（過去最多） ^[3]
公式サイト	https://pifc.jp/2025/	https://pifc.jp/2026/

注：2026 年フェアは本稿執筆時点（2026 年 9 月 22 日）で終了済み。来場者数は公式サイト掲載の日別集計（9/16 3,959 人、9/17 4,675 人、9/18 6,868 人）による^[1]。出展社数・プレゼン数は開幕前の主催者発表^[3]。

2.2 方法と限界

- ・ 両年の公式サイト（開催概要・前回レポート・出展者プレゼンテーションタイムテーブル）、公式来場者ポータル、出展社の公式案内・プレスリリース・製品更新情報、業界関係者の事後記事を照合した。2026 年公式サイトのプレゼン一覧ページは JavaScript 描画のため本文を直接取得できず、第三者まとめ^[14]および出展社の公式案内で補完した。
- ・ 「会場で実演された」とことと「製品に機能が存在する」とことは証拠の性質が異なるため区別する。出展社の実施報告はその企業の発表として扱い、独立した精度評価とはみなさない。以下、「確認済み事実」と「分析」を明示的に区別する。

3. 2025 年（第 34 回）における「生成 AI×化学構造式」関連の展示・発表

3.1 化学構造検索の基盤：化学情報協会（CAS STNext）

- ・ ブース：西 4 ホール W4-82。出展案内は「化学・医薬分野に特化した情報検索ツールの実演に加え、専門性の高い特許翻訳サービスや特許調査サービスをご紹介」とし、展示製品は CAS STNext、JAICI 機械翻訳・辞書サービス、調査サービス SHIPS^[12]。

- ・ 生成 AI への言及は機械翻訳 (JAICI ProTranslator EXPRESS-Light 等) の文脈にとどまり、生成 AI による化学構造式の処理は訴求されていない^[12]。化学構造・Markush 検索は CAS 系の専用検索基盤の機能であり、生成 AI とは別系統である。

3.2 生成 AI ツールにおける「化学式対応」の言及

- ・ **トヨタテクニカルディベロップメント (swimy)** : 9 月 11 日 P42・12 日 P77「swimy の生成 AI エージェントでイノベーションを加速する」。要旨は、発明アイデアから図やフローチャート付きの発明提案書を自動生成し、技術概要から分析レポートを自動作成すると述べたうえで「化学式や数値範囲にも対応」と明記^[4]。
- ・ **Patsnap (Eureka)** : 9 月 11 日 P39「新 AI AGENT による知財ソリューションの強化」。要旨に「新 AI AGENT シリーズ Eureka (新規性調査、Markush Claim 作成補助など)」と記載^[4]。9 月 12 日 P69 は「AI AGENT 新登場 創薬を牽引する AI, R&D, 知財」で、知財・R&D・創薬・材料領域向けの製品群を扱った^[4]。
- ・ **パテント・インテグレーション (サマリヤ)** : 9 月 12 日 P70「『サマリヤ』の AI 新機能のご紹介」は生成 AI 機能全般^[4]。ただし同製品の「図面指示」機能は、特許文書の図面・表・化学構造式・数式の画像に対する AI 解析 (化学構造式の一致点・相違点の対比、化学構造式と表との関連性の説明など) を 2025 年 8 月時点のマニュアルで案内しており^[17]、化学構造式画像の読解自体は 2025 年フェア以前から存在した。

3.3 アイビーリサーチ (特許専用 LLM)

- ・ ブース : 西 4 ホール W4-116^[23]。9 月 10 日 P25・11 日 P44・12 日 P93「生成 AI (ローカル CPU 駆動) ■特許専用 LLM■ 戦略的に明細書生成!」。要旨は、特許に特化した生成 AI が各段落を順に生成し、クラウドに一切アクセスせず特許専用 LLM 単独で明細書生成が可能、指定分野の公報データベース化による RAG 方式も可、というものの^[4]。化学構造式や画像入力への言及はない。

3.4 全体傾向

- ・ 塩谷綱正氏 (イーパテント・アクティス) は事後記事で、2025 年フェアの主役は疑いなく生成 AI であり、各ブースが特許調査の効率化・知財業務の自動化・AI 分析の高度化といったキーワードで溢れていたと記し、ハイプ・サイクルに準えて生成 AI を「流行期」と観察した^[22]。

(分析) 2025 年の「生成 AI×化学構造式」は、生成 AI ツールの対応項目の一つ (swimy の化

学式対応、Eureka の Markush 作成補助、サマリアの構造式画像読解）として存在したが、化学構造式を主題とする展示・発表は確認できない。構造検索の本流は非生成 AI 型の CAS STNext であった。

4. 2026 年（第 35 回）における「生成 AI×化学構造式」関連の展示・発表

4.1 ワートインテリジェンス「keywert Chemistry」—構造式の認識・検索を主題に

- ・ ブース：東 3 ホール 3-L26^[5,6]。開幕前（9 月 9 日）のプレスリリースは、汎用言語モデルでは正確に読み取れない特許内の化合物を認識・検索する機能を日本で初めて実演すると発表。106 カ国の特許 1 億 7,000 万件と特許文書 3,000 億件を学習した特許ドメイン言語モデル「PlutoLM」を基盤とし、化学式検索のためにトリリオンラボスと共同で化学ドメイン LLM をゼロから別途学習させたと説明する^[5]。
- ・ 同リリースは、特許文献内の化学構造式や実施例段落に混在する物質名・合成条件・物性データは汎用 AI では構造化できず検索精度が低下する領域であり、日本は化学・素材特許の密度が高い市場であると位置づける。ブースでは化学式検索に加え、keywert Insight／keywert Pro による技術動向分析・先行技術調査・発明届出書生成・明細書草案作成までの「IP-AX」ワークフローをライブ公開し、来場者は自社保有化合物を直接入力して検索を体験できるとした^[5]。
- ・ 会期中（9 月 17 日）の続報は、初日から化学構造式の認識・検索機能に日本企業の関心が集まり、来場者が自社化合物データを入力して結果を確認したと報告^[6]。

（分析）2026 年で「化学構造式」を最も明示的に主題化した出展である。文字列（IUPAC 名・SMILES 等）経由ではなく構造式そのものを認識・検索する点、および来場者自身の化合物で試す実演形式が特徴。ただし精度に関する記述は同社の訴求であり、第三者評価は確認できない。

4.2 化学情報協会／CAS「CAS Newton」—精査データに基づく検証可能なエージェント検索

- ・ ブース：東 3 ホール 3-C24。出展のお知らせ（9 月 15 日）は「今年は、科学特化型 AI『CAS Newton』搭載の CAS IP Finder と CAS SciFinder を中心に展示・デモンストレーションを実施」「高品質データとプロセス可視化で『検証可能な AI 知財調査』を実現」と明記。あわせて「AI の弱点である『網羅的な検索式设计』や『クレーム解釈・回避設計の提

案』は、医薬・化学・バイオの専門スタッフが揃う SHIPS が徹底サポート」とし、9月18日 10:15-11:00 に P3 会場で出展者プレゼンテーションを実施した^[7]。

- ・ CAS Newton の位置づけ：CAS の科学者が精査した 150 年以上の蓄積データ（CAS Content Collection）を基盤に、自然な日本語の対話から「ハルシネーションのない検証可能な回答」を導く科学特化型エージェント AI。化学構造と文献情報を組み合わせた回答生成、高度な構造検索・官能基の反応性・スペクトル・物性データへの対応、すべての回答を出典へ遡って検証できること、入力情報を AI 学習に利用しないこと、外部 Web 情報を検索対象に含めないことを掲げる^[8]。
- ・ 基盤ツールの経緯：CAS は 2025 年 9 月 9 日に CAS IP Finder, powered by STN を AI 強化型の新 IP 検索ソリューションとして発表し^[9]、2026 年 1 月 20 日に CAS STNext 顧客が全機能を利用可能になったと告知した^[10]。同ツールは化学構造・反応・配列・Markush 検索を備える^[11]。

（分析）2025 年の「CAS STNext の実演」から、2026 年の「CAS Newton 搭載ツールによる検証可能な AI 調査」へと訴求の中心が移った。これは、生成 AI ベンダー側が化学構造式へ踏み込むのと並行して、専用構造検索基盤の側がエージェント化・自然言語化に踏み込んだ動きであり、両者が接近しつつある。同時に、網羅的な検索式设计やクレーム解釈は専門家（SHIPS）が担うと明示しており、Human-in-the-loop を前提とした設計である。

4.3 アイビーリサーチ「AIPs」—構造式画像を起点とする権利化文書の生成

- ・ ブース：東 3 ホール 3-I20。出展者ポータルに記載は「特許文書作成に特化したオフライン PC 駆動の生成 AI【AIPs】は、図面・化学式などの画像を元に発明を理解し、請求項や実施形態のドラフトを生成」^[13]。出展者プレゼン「特許専用生成 AI+RAG=図面・化学式などを元に請求項・実施形態生成」を 9 月 16 日 12:35-13:20、17 日 10:15-11:00、18 日 12:35-13:20 の 3 回実施^[14]。特許登録公報のみ数万件を学習した特許専用 LLM を、インターネット非接続のローカル LLM（CPU 動作）で提供する点を訴求^[13,15]。

（分析）2025 年の同社プレゼン要旨^[4]と比較すると、「図面・化学式などの画像を元に」という視覚情報の入力に 2026 年に明示的に加わった。構造式画像を含む発明理解から権利化文書生成へ踏み込む点で、化学分野の出願実務に直接関わる。もっとも、化学式から文章を生成できることと、Markush 構造の全範囲を正しく解釈できることとは別の能力である。

4.4 パテント・インテグレーション「サマリア」—構造式を成果物として描画・出力

- ・ 2026 年 9 月 9 日の更新情報は、明細書作成支援機能の改良として「『Agent』機能で複雑な化学式も本文中に記載可能に」を発表。ベンゼン環を含む複雑な化学式を本文中に記載でき、SMILES 形式で AI が作成した化学式は「smiles-drawer」で描画され、Word や特許庁提出用の PNG 形式で出力できるとし、「化学・医薬等の領域における明細書作成につきましても、引き続き快適な作成環境の提供に注力」と述べる。同じ更新情報に 2026 年フェア出展（操作デモ、3 日間の講演・セミナー）の案内を掲載^[16]。

（分析）2025 年以前から存在した「構造式画像を読む」機能^[17]に加え、「構造式を文書の成果物として描画・出力する」工程が具体化した。ただし、この機能が会場のどの実演・講演で扱われたかは公開資料からは確認できない。

4.5 その他の関連出展

- ・ **Patsnap**（9 月 16 日 13:45–14:30 P3「AI 時代の知財・R&D を支える Patsnap AI 戦略」、14:55–15:40 P1「Patsnap Analytics、AI で進化する特許調査分析の最前線」）：
Analytics・Eureka に加え、MCP による外部 AI・ツール連携、Agent Skills による AI ワークフロー構築を訴求^[18]。同社は化学構造検索・分析製品「Patsnap Chemical」を製品ラインに持つが、2026 年フェアの案内では化学構造式・Markush を個別には掲げていない^[18]。
- ・ **トヨタテクニカルディベロップメント×AI Samurai**（3-E14）：生成 AI を活用した知財業務支援システム、知財総合コンサルティングサービス等を共同出展。2026 年の案内には 2025 年に明記されていた「化学式対応」の記述はない^[19]。
- ・ **アイ・ピー・ファイン**（3-C23）：「THE 調査力 AI」等により、生成 AI と人との分業、ノイズ 90%除去、国内外特許検索から分析までの一気通貫を訴求。化学構造式に特化した内容ではない^[20]。
- ・ **Patentfield**：「AI 検索の次へー生成 AI と画像検索が拓く次世代知財ツール」（9 月 18 日 14:55–15:40）。意匠・図面の画像検索が主眼で、化学構造式特化ではない^[14,21]。
- ・ **パトコア**（ChemAxon の Markush Editor 等を国内提供）^[25]、Elsevier（Reaxys）、Clarivate、Questel、Minesoft 等：化学構造式と生成 AI を直接結び付ける 2026 年の展示・発表は本調査では確認できず。

5. 両年の比較表

5.1 出展者別

出展者・製品	2025 年（第 34 回）で確認できる内容	2026 年（第 35 回）で確認できる内容
ワートインテリジェンス keywert Chemistry	出展・発表を確認できず	化学構造式の認識・検索を日本初実演、来場者の自社化合物で体験（3-L26） ^[5,6]
化学情報協会／CAS	CAS STNext 実演、機械翻訳、SHIPS（W4-82） ^[12]	CAS Newton 搭載の CAS IP Finder／SciFinder、「検証可能な AI 知財調査」、9/18 P3 プレゼン（3-C24） ^[7,8]
アイビーリサーチ	ローカル CPU 駆動の特許専用 LLM で明細書生成（P25・P44・P93） ^[4]	「図面・化学式などを元に請求項・実施形態生成」を 3 回プレゼン（3-I20） ^[13,14]
パテント・インテグレーション サマリア	生成 AI 新機能全般（P70） ^[4] 。構造式画像の読解機能は既存 ^[17]	AI 生成 SMILES を描画し Word／PNG 出力する明細書作成支援を会期直前に実装 ^[16]
Patsnap	Eureka：Markush Claim 作成補助・新規性調査（P39） ^[4]	MCP・Agent Skills による業務連携（9/16 2 件） ^[18]
TTDC（swimy）／AI Samurai	swimy 生成 AI エージェント「化学式や数値範囲にも対応」（P42・P77） ^[4]	生成 AI 知財業務支援・コンサルへ拡大、化学式の個別言及なし（3-E14） ^[19]

5.2 観点別

観点	2025 年（第 34 回）	2026 年（第 35 回）
化学構造式の位置づけ	生成 AI ツールの対応項目の一つ（化学式対応、Markush 作成補助、画像読解）	展示・発表の主題（構造式検索の実演、構造式画像からの起案、構造式描画出力）
入力	テキスト中心。化学式・図面への対応は機能として存在	構造式画像・SMILES 等を検索・起案の入口として明示 ^[5,13]
出力	要約、発明提案書、Markush クレーム作成補助	構造式を含む明細書ドラフトと Word／PNG への描画出力 ^[16]
検索基盤	専用構造検索（CAS STNext）と生成 AI が別系統で併存	専用データ基盤の上にエージェント AI（CAS Newton）を載せ、根拠遡及を訴求 ^[7,8]
検証・信頼性	生成文の品質・利便性を主に訴求	「検証可能」「ハルシネーションのない」「学習非利用」「オフライン」を前面に ^[7,8,13]
プレイヤー	国内ベンダー中心	韓国の特許特化 LLM ベンダーが参入、既存の科学データ機関が AI 統合 ^[5,7]
実演形式	デモ・講演中心	来場者の自社化合物を持ち込んで試す体験型 ^[5,6]

注：表中の「確認できず」は、本調査で一次資料上に該当記載を見出せなかったことを意味し、ブースでの口頭説明・デモの不存在を証明するものではない。

6. 考察：何が変わったか

6.1 「対応項目」から「主題」へ

2025 年にも化学式・Markush に触れる生成 AI 発表は存在した^[4]。したがって 2026 年を「化学分野への初進出」と位置づけることはできない。変化したのは扱いの重心である。2025 年は「化学式にも対応」という一行の付記であったものが、2026 年にはワートインテリジェンスの化学構造式検索実演^[5,6]、化学情報協会の CAS Newton 中心の展示^[7]、アイビーリサーチの「化学式などを元に」を冠したプレゼン^[14]のように、出展・発表の主題として掲げられた（分析）。

6.2 入口・出口・検証の三方向への具体化

（分析）2026 年の各社訴求を横断すると、化学構造式をめぐる生成 AI の用途が三方向に具体化している。第一に入口：構造式画像や SMILES を検索・起案の起点とする（keyword Chemistry、AIPs）。化合物名が分からない場合や、名称と構造式が混在する資料を調べる利用場面が明確になった。第二に出口：AI が生成した構造式を文書の成果物として描画・出力する（サマリア）。第三に検証：精査済み科学データのみを参照し、回答を出典へ遡れるようにする（CAS Newton）。2025 年の「生成文の目視確認」に対し、2026 年は「根拠データの提示」を設計に組み込む方向へ移行した。

6.3 「二層構造」の変容：専用検索基盤の側からの接近

2025 年時点では、①化学構造式×厳密検索（CAS STNext、非生成 AI）と②化学構造式×生成 AI（対応項目レベル）が別レイヤーで併存していた。2026 年には、②の側が構造式の認識・検索や起案へ踏み込む（ワートインテリジェンス、アイビーリサーチ）一方、①の側も CAS Newton により自然言語対話・エージェント化・根拠遡及を取り込んだ^[7,8]。両者は接近しつつあるが、化学情報協会は網羅的な検索式设计やクレーム解釈・回避設計を専門家（SHIPS）が担うと明示しており^[7]、知財判断まで自動化されたわけではない（分析）。

6.4 プレイヤーと実演形式の変化

2026 年には韓国の特許特化 LLM ベンダー（ワートインテリジェンス）が化学構造式を武器に日本市場へ参入し^[5]、既存の科学データ機関（CAS）がエージェント AI を統合した^[7,8]。実演形式も、来場者が自社保有の化合物データを入力して結果を確かめる体験型が現れた^[5,6]。化学系

企業の担当者にとって、自社データでの検証機会が会場で提供されるようになった点は、評価・選定プロセスの変化として意味がある（分析）。

6.5 変わっていないこと

（分析）Markush 包括クレーム（一般式・置換基定義・除外条件）の論理展開と FTO 判定を生成 AI が自動完結できることを示す資料は両年ともない。Patsnap は 2025 年に Markush クレーム作成補助を掲げたが^[4]、作成補助と他社権利範囲への包含判定は別の作業である。各社の精度主張は自己申告であり、全社共通データセットによる構造式認識率・Markush 包含判定・FTO 網羅性の比較試験は存在しない。日本アイアールは、精度重視の化学系スクリーニングを生成 AI に全面的に任せることは 2025 年 10 月時点で難しい側面が残ると指摘しており^[24]、この状況が 2026 年に根本的に変わったことを示す公開資料はない。

7. 化学分野の知財実務への含意

- ・ **特許調査・FTO・無効資料調査**：構造式・Markush の厳密検索は引き続き専用データ基盤（CAS IP Finder 等）が中核。2026 年の変化により、①構造式画像からの候補抽出（keyword Chemistry）、②自然言語対話による根拠付き探索（CAS Newton）を一次スクリーニングに組み込む選択肢が現実味を帯びた。ただし境界領域の権利解釈は専門調査員・弁理士の介在が前提であり、化学情報協会自身がそう位置づけている^[7]。
- ・ **クレーム・明細書作成**：構造式画像から請求項・実施形態を生成する AIPs^[13]、構造式を描画・出力するサマリア^[16]により、化学分野の起案工程が生成 AI の射程に入った。評価の中心は、構造データ・図・本文・請求項の相互一致（置換位置や結合の変化は化合物の同一性を変える）に移る。生成に要した時間だけでなく、誤りの発見・修正と根拠確認を含む総作業時間で導入効果を測るべきである（分析）。
- ・ **秘匿性とインフラ選択**：公開特許網を対象とするマクロ調査にはクラウド型（keyword Chemistry、CAS IP Finder）、出願直前の未公開化合物に基づく起案にはオフライン完結型（AIPs）という、機密区分に応じた使い分けが選択肢として整った。CAS Newton が入力情報を学習に利用しないと明示する点^[8]も、企業知財の要件に直結する。
- ・ **評価項目（分析）**：導入検討では、自社の文献と化合物を用い、(a)略記・立体化学・電荷・低画質画像での構造認識、(b)既知の関連特許を取り出せるかと入力表現を変えた際の再現性、(c)包含例・除外例による Markush 判定、(d)構造式・SMILES・図・請求項・本

文の整合性、(e)生成・検索・根拠確認・修正を合計した作業時間、を作業単位で確かめることが妥当である。

8. 今後の展望と観測ポイント

- ・ **構造式認識の第三者評価**：keywert Chemistry や AIPs が訴求する構造式認識について、ユーザー企業による検証報告や共通ベンチマークが現れるか。これが「主題化」から「実務定着」への移行を測る指標となる（分析）。
- ・ **専用基盤とエージェントの融合の深度**：CAS Newton が構造検索・Markush 検索の設計そのものにどこまで踏み込むか。2026 年時点では検索式设计・クレーム解釈は SHIPS が担うと明示されており^[7]、この境界の移動が観測点となる。
- ・ **起案ツールの構造式整合性**：サマリアの SMILES 描画出力^[16]や AIPs の化学式入力^[13]が、Markush クレーム・実施例・表の整合性検査まで拡張するか。
- ・ **2027 年フェアの観測ポイント**：化学構造式を主題とする出展者が 2026 年の 3～4 社から増えるか、パトコア（ChemAxon）や Reaxys 等の化学構造専門が PIFC に出展するか、海外の特許特化 LLM ベンダーの参入が続くか。

9. 留意事項（未確認事項・限界）

- ・ 2026 年公式サイトの出展者プレゼン一覧は直接取得できず、第三者まとめ^[14]と出展社の公式案内で補完した。全 108 テーマ／86 テーマの逐条確認は未了。ワートインテリジェンスの出展者プレゼン枠（9 月 17 日、Wegofair との共同講演とされる）は本調査では一次資料で確認できず未確認。
- ・ ワートインテリジェンスの PlutoLM 学習規模（106 カ国・1 億 7,000 万件・3,000 億件）や構造式認識の精度は同社発表^[5,6]に基づく自己申告であり、第三者検証は確認していない。「日本初」も同社の表現である。
- ・ アイビーリサーチの製品名は出展者ポータルで「AIPs」^[13]と表記される。2025 年段階で化学式画像入力の機能が一部存在した可能性は否定できず、「2026 年に前面化した」以上の断定はしない。
- ・ サマリアの化学式記載・描画出力機能^[16]は会期直前の製品更新情報に基づき、会場での実演内容との対応は未確認。CAS Newton の機能説明^[8]は製品ページに基づき、全機能が当日デモに含まれたことを意味しない。

- ・ Patsnap は化学構造検索製品を持つが、2026 年フェアでの化学構造式関連の実演有無は未確認。パトコア／ChemAxon、Elsevier (Reaxys)、Clarivate、Questel、Minesoft 等の 2026 年の化学構造式関連展示も未確認。
- ・ 本稿の考察（「入口・出口・検証」「二層構造の変容」等）は筆者の分析であり、各社の出展・発表という確認済み事実とは区別している。

参考文献

- [1] 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト「開催概要」（来場者数日別集計、会期・会場・主催）. <https://pifc.jp/2026/index.html>
- [2] 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト「前回レポート」（2025 年実績：158 社・団体／328 小間、登録来場者 15,207 人、前回出展企業一覧）. <https://pifc.jp/2026/report.html>
- [3] 株式会社産経新聞社「史上最大規模、国内外 171 企業が集結！『第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス』9 月 16 日、東京ビッグサイトで開幕」PR TIMES, 2026 年 7 月 30 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002094.000022608.html>
- [4] 2025 知財・情報フェア&コンファレンス「出展者プレゼンテーションタイムテーブル」（PDF、9 月 10～12 日、P25・P39・P42・P44・P69・P70・P77・P93 等）. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf
- [5] Wert Intelligence Co., Ltd. 「ウォートインテリジェンス、日本最大の知財展示会『PIFC 2026』に出展 — アジア IP 市場への進出を本格化」PR TIMES, 2026 年 9 月 9 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000188610.html>
- [6] Wert Intelligence Co., Ltd. 「ワートインテリジェンス、日本の PIFC 初日から『keywert Chemistry』に注目が集まる」PR TIMES, 2026 年 9 月 17 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000188610.html>
- [7] 一般社団法人化学情報協会「知財・情報フェア&コンファレンス 出展のお知らせ (9/16-18)」2026 年 9 月 15 日（CAS Newton 搭載 CAS IP Finder／SciFinder、ブース 3-C24、9/18 P3 プレゼン）.
<https://www.jaici.or.jp/news/info/2026/2026-09-15/>
- [8] 一般社団法人化学情報協会「CAS Newton in CAS SciFinder - 科学特化型エージェント AI」.
<https://www.jaici.or.jp/cas-scifinder-discovery-platform/cas-scifinder/cas-newton/>
- [9] CAS, “CAS introduces CAS IP Finder for improved intellectual property search,” Press release, September 9, 2025. <https://www.cas.org/press-releases/cas-introduces-cas-ip-finder-for-improved-intellectual-property-search>
- [10] CAS, “CAS IP Finder expands intellectual property search access across organizations,” Press release, January 20, 2026. <https://www.cas.org/press-releases/cas-ip-finder-expands-intellectual-property-search-access-across-organizations>
- [11] 一般社団法人化学情報協会「CAS IP Finder, powered by STN — 研究と知財をつなぐ情報プラットフォーム」（化学構造・反応・配列・Markush 検索）. <https://www.jaici.or.jp/stn-ip-protection-suite/cas-stnext/>
- [12] 一般社団法人化学情報協会「2025 知財・情報フェア&コンファレンス出展のお知らせ」（西 4 ホール

- W4-82、CAS STNext・機械翻訳・SHIPS) . <https://www.jaici.or.jp/schedule/2025/2025-09-10/>
- [13] 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式来場者ポータル (AiMeet Portal) 「出展者一覧」 (アイビリーサーチ「AIPs」等の出展者説明) . <https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>
- [14] IP Digital Innovation Hub 「【知財・情報フェア&コンファレンス 2026】セミナー・プレゼン情報まとめ」 Substack, 2026 年 9 月 6 日最終更新. <https://ipdigitalinnovationhub.substack.com/p/2026>
- [15] アイビリーサーチ株式会社 公式サイト . <https://www.ibr.co.jp/>
- [16] パテント・インテグレーション株式会社「新機能『ファミリー用語ベア抽出』・サマリア MCP の改良 第 305 回知財実務オンライン登壇のご案内」サマリア更新情報, 2026 年 9 月 9 日 (「Agent」機能による化学式記載、SMILES 描画・Word/PNG 出力、2026 フェア出展案内) . https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260909
- [17] パテント・インテグレーション株式会社「図面指示」サマリア利用マニュアル, 最終更新 2025 年 8 月 18 日 (図面・表・化学構造式・数式画像の AI 解析) . <https://patent-i.com/summaria/manual/figuretask>
- [18] Patsnap 「『第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展いたします」 2026 年 9 月 8 日更新 (9/16 P3・P1 プレゼン、MCP・Agent Skills) . <https://www.patsnap.jp/event/pif2026>
- [19] トヨタテクニカルディベロップメント株式会社「『2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展します」 PR TIMES, 2026 年 8 月 28 日 (ブース 3-E14、AI Samurai と共同出展) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000046.000070679.html>
- [20] アイ・ピー・ファイン株式会社「2026 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展します」 (ブース 3-C23、THE 調査力 AI) . [https://ipfine.jp/event-seminar/2026 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展しま/](https://ipfine.jp/event-seminar/2026%20知財%20情報フェア&コンファレンスへ出展しま/)
- [21] Patentfield 株式会社「2026 知財・情報フェア&コンファレンス出展のお知らせ」 PR TIMES, 2026 年. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000025380.html>
- [22] 塩谷綱正「知財情報フェア 2025 で感じたこと | AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂」 note, 2025 年 9 月 14 日. <https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>
- [23] 2025 知財・情報フェア&コンファレンス「会場マップ」 (PDF、出展者ブース番号) . https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025map_v2.pdf
- [24] 日本アイアール株式会社「生成 AI で特許調査はどこまでできる？化学系調査・スクリーニング編」 . https://nihon-ir.jp/generative-ai_patent-search_chemical1/
- [25] バトコア株式会社「Markush Editor」 (ChemAxon 製マーカッシュ構造作成・クレーム作成支援) . https://patcore.com/product/markush_editor
- [26] 一般財団法人日本特許情報機構 (Japio) 「知財・情報フェア&コンファレンス」 . <https://japio.or.jp/fair/index.html>

※ [21][23][24][25][26]は前回調査時の取得結果に基づき、本稿作成時点で本文を再取得していない。その他は本稿作成時点で本文を直接確認した。